

# 平成13年度共同研究活動報告書

## 【共同研究者名】

竹本 吉夫<sup>1)</sup> 富野 弘之<sup>2)</sup> 他9名

## 【研究課題名】

音楽療法に関する臨床的研究

## 【研究目的】

音楽による「癒し」を究明するため、定期的に研究会を開催するほか、音楽を聴いての呼吸、脈拍、脳波を測定し科学的な見地からの研究を推進していく。また、創作曲の普及活動を通してその有効性を検討する。

### I. 研究実践

1. 音楽療法普及のためのフォーラム公開
2. 当研究会として秋田県はもとより東北地方への音楽療法の普及と啓蒙活動を図るため昨年を引き続き次のとおり公開フォーラムを開催した。
3. 今回は、癒しの技法を東洋と西洋の二つの視点から取り上げた。
4. フォーラム・テーマ：「こころとからだの癒し」（平成13年9月22日（土）秋田県児童会館）

今大会は二部制とし、第一部は会員による講演及び演奏、第2部はパネルディスカッションと特別演奏という企画で一般公開した。司会はフリーアナウンサーの宮野さおりさんをお願いした。

#### <第一部>

- (1) 「音楽の持つ癒しの力」と題して3人の講演が行われた。当研究会員で音楽療法士の松田美穂氏が「生きることと音楽～痴呆高齢者とともに～」と題し、新潟県介護老人保健施設「ケアポートすなやま」で行っている音楽療法（俳句と音楽を組合わせての実践、癒しのオリジナル曲の歌唱等）が紹介された。
- (2) 岐阜県音楽療法士の原田恵美氏が、「日本人のこころ～御詠歌と東儀秀樹氏の世界～」と題して宗教曲が癒しの曲となることを雅楽を用いて説明した。
- (3) 当研究会員の坂本昌氏が「音楽療法に思うこと」と題して西欧の音楽療法と日本の音楽療法を比較しながら楽器を用いて実演し人間の持つ根元的癒しについて説明した。
- (4) 次に「楽しいセッション～聴く、演ずる、歌う～」と題し実際に福祉施設等へ訪問し実施しているセッションを、当研究会員が所属しているハーモニカサークル（平和アンサンブル）の演奏、日本赤十字秋田短期大学のゴスペル&ポピュラーミュージックサークル20名の歌、ヤマハシャイニングスターズ10名によるサイレント大正琴の演奏により紹介した。

#### <第二部>

- (1) パネルディスカッション～気とは何か～が、コーディネーターに橋本 誠氏（秋田赤十字病院精神科部長）、パネリストに吉崎克明氏（秋田大学医療技術短期大学部部長・教授）、高島充氏（株エム・アイ・ラボ社長）、小林恵津子氏（社会体育研究所副所長・日赤秋田短大特任講師）を迎えて行われ、“気”（心理的变化）に対し科学的見地、東洋医学の見地からの意見がだされた。

パネルディスカッションの後は、実演が行われ、小林恵津子氏から医療気功—導引養生功—が紹介された。

---

1) 学長（看護学科教授） 2) 事務部総務課長

本研究活動報告は平成13年度共同研究費の助成を受けて行った「音楽療法に関する臨床的研究」報告である。

- (2) 特別演奏「中国揚琴の世界」は世界的揚琴奏者「金 亜軍氏」の揚琴演奏が披露された。参加者は、はりがあり、やわらかな揚琴の音色に陶酔しうっとりと聞きほれた。
- (3) 入場者は約150名と少なかったが、盛りだくさんで長時間のフォーラムに最後まで熱心に観覧していた。
- (4) フォーラムのアンケートは回収率24%。そのうち全体的印象はよかったという人が多かった。揚琴演奏で「涙が出た」、「人生の縮図を飲み込んで力強く流れる揚子江のイメージがあった」等の意見があり、研究会としてはこのイベントは成功したものと確信した。

(資料等)

- ・公開フォーラムパンフレット (資料1 省略)、アンケート結果 (資料2)

## II. 秋田県高齢者福祉施設対象音楽療法に関するアンケート

秋田県内の音楽療法の実態を掌握するため、前回(平成11年8月)に引き続き福祉関連施設を対象としてアンケート調査を実施した。

・対象および方法

調査対象数は、県内の福祉施設145施設で行い、回収施設数は70施設(48%)。アンケート調査は施設長ならびに音楽療法担当者への調査表の郵送方式によった。

今回の調査目的は、研究会員が各施設に訪問しセッションが可能かどうかであり、結果として受入可能施設は64.2%(45施設)となっている。

また、当研究会へ期待するものは、「療法を実際に見て学びたい」、「痴呆老人への療法を希望する」、「基本的な指導法や目的を明確にする」等があった。(アンケート結果資料3)

## III. エアパット圧力センサーによる呼吸の検査

平成13年4月、当研究会員重川敬三氏を中心に実施した。

研究目的は、健常者(学生)5名に対し、曲想の違う6曲を聴かせ、呼吸の変動を測定することにより、より刺激を受けた曲(呼吸変動係数の大きい曲)がどういう傾向の曲であるかを確認した。

学生5名には、クラシック(バロック:バッハ「アリア」)、民謡(秋田音頭)、マーチ(星条旗よ永遠なれ)、軍歌(同期の桜)、日本の叙情歌(浜辺の歌)、ポピュラーソング(5人がそれぞれ好きな曲)の曲を聴かせ、それぞれの曲について呼吸変動係数値(標準変差値÷平均値)を測定した。

その結果、それぞれの曲についてはほぼ一定の数値の学生(3名)と、明らかに特定の曲に対する呼吸変動係数値が極端に高くなった学生(2名)に分かれた。後者については、2名ともバッハの「アリア」に反応がみられ、1名については、民謡にも反応が見られた。

この結果、呼吸変動係数値が高くなるということは、吸気及び呼気の長さ、深さ、早さにおいて、よりバラツキがあることを表しており、その曲に何らかの刺激が与えられたと言える。

その刺激の状態(癒されている状態又は不快による拒否状態)については、本検査では判明できないが、今後さらに脳波測定によって解明していきたい。

また、注目すべき点として、ポピュラーソングにおける数値がある。ポピュラーソングは、学生がそれぞれ好きな曲を聴いているのだから、当然よい刺激を受け、呼吸変動係数値が高くなると予想されたが、全員低くなっていた。

このことは、好きな曲であっても何回も聞いてその曲に慣れが生じ新鮮度が失われていることに起因しているものと思料される。いずれにしても第2段階での研究で解明していくこととしたい。

<音楽鑑賞による呼吸変動係数表 資料4 >

資料 2

公開フォーラム「こころとからだの癒し～東と西の技法～」アンケート結果について

日 時 平成13年9月22日(土) 9:15～16:00  
場 所 秋田県児童会館

調査対象人員91名 回答者22名(回答率24%)

1. 公開フォーラムの企画について

よかった12名 まあまあだった6名 無回答4名

(1) 第一部の講演について

よかった18名 まあまあだった3名 無回答1名

(2) 第一部の特別演奏について

よかった10名 まあまあだった9名 あまりくなかった1名 無回答2名

(3) 第二部の“気”とは何かについて

よかった4名 まあまあだった9名 あまりくなかった1名 無回答8名

(4) 第二部のミニコンサートについて

よかった15名 無回答7名

(5) 印象に残ったものは何でしたか。

- ・ 鋼琴の演奏 8名
  - ・ 涙が出た
  - ・ ゆったりした中に時には激しく人生の縮図を飲み込んで力強く流れる揚子江のイメージで聞きました。
  - ・ 癒された
- ・ ゴスペル 5名
- ・ その他(松田講演 原田講演 医療気功の指導 ラストの合唱)

2. 期待していたものは得られたか

得られた10名 まあまあ得られた11名 無回答1名

3. フォーラム全体の時間について

長すぎた9名 ちょうどよかった11名 無回答2名

(1) 「長すぎた」との回答者の希望時間

- ・ 2時間～3時間(13:30～16:30)

4. 今後のフォーラムへの要望

- ・ ある対象と仮定した音楽療法の実際について学びたい。
- ・ 司会者を選ぶ場合と打ち合わせを十分に
- ・ 日常健康で過ごすための心の持ち方、筋肉の使い方を重点的に知りたかった。
- ・ 専門的な研究発表の時間の割合をカットしてほしい。
- ・ 午前の部、午後の部ともに中間に10分くらいの休憩があるとよかった。
- ・ 参加者が少なく残念でした。
- ・ もっと多くの人を参加させることができればよかった。
- ・ 導引養生功と揚琴
- ・ 午前の講演がもっとゆっくりの口調で話してほしい。
- ・ もっと前もって広報してほしい。
- ・ 講演は時間不足、セッションはもっとコンパクトにした方がよい。

5. 参加者の自宅

秋田市 15名  
仙北郡 2名  
南秋田郡 2名  
北秋田郡 1名  
山形郡 1名  
山本郡 1名

資料 3

秋田県高齢福祉施設対象音楽療法に関するアンケート結果

秋田県音楽療法研究会

調査施設数 145施設 回答施設数 70施設(回答率48.2%)

1. 音楽療法の実施状況

(1) 音楽療法の実施施設

施設種別	回答施設数	実施施設数	実施率(%)
特別養護老人ホーム	17	2	11.8
デイサービスセンター	23	5	21.7
養護老人ホーム	3	0	0.0
軽費老人ホーム	2	1	50.0
介護老人保健施設	15	10	66.7
知的障害者援護施設	8	2	25.0
身体障害者更生援護施設	2	0	0.0
計	70	20	28.6

(2) 音楽療法の内容について

【特別養護老人ホーム】

- ・ 月1回リハビリという形でアコーディオン演奏に合わせて歌う
- ・ 療法は意識しないが時間をみて歌ったり車椅子に座ったままフォークダンスを踊る

【デイサービスセンター】

- ・ 音楽のリズムにあわせてリハビリ体操「365歩のマーチ」
- ・ 楽器演奏(タンバリン、鈴、カスターネット)
- ・ ナンメロを歌う

【軽費老人ホーム】

- ・ 月1回アコーディオンに合わせて童謡等を歌っている

【介護老人保健施設】

- ・ 童謡、唱歌、民謡、歌謡曲を歌う
- ・ リズム体操
- ・ 唱歌をメインとした回想法
- ・ 楽器演奏(ハンドベル、タンバリン、鈴)

【知的障害者援護施設】

- ・ 歌唱、フォークダンス
- ・ 音楽にあわせての歩行運動

(3) 音楽療法実施の幅

【特別養護老人ホーム】

- ・ 質やゆとりにつながるスタッフの確保ができない

【デイサービスセンター】

- ・ 音楽の嫌いな人への対応
- ・ 療法の基本的な方法やねらいが明確になっていない

【介護老人保健施設】

- ・ 集団対応のため、個々の対応ができない
- ・ 高齢者世代の曲目の知識が未熟
- ・ 人所者が興味をもってもらえる工夫が必要
- ・ 音楽理論をもった人がいない
- ・ 療法がわからない

【知的障害者援護施設】

- ・ 療法ができる人がいない

2. 研究会員の施設への訪問について

(1) 受入可能施設

施設種別	回答施設数	受入可能施設	受入率(%)
特別養護老人ホーム	17	10	58.8
デイサービスセンター	23	16	69.6
養護老人ホーム	3	1	33.3
軽費老人ホーム	2	1	50.0
介護老人保健施設	15	13	86.7
知的障害者援護施設	8	3	37.5
身体障害者更生援護施設	2	1	50.0
計	70	45	64.2

(2) 訪問時期

- ・ 特別養護老人ホーム(10施設)
  - 1ヶ月に1回 4施設
  - 1週間に1回 1施設
  - 2週間に1回 1施設
  - 年4回程度 1施設
  - 協議で決定 3施設
- ・ デイサービスセンター(16施設)
  - 1ヶ月に1回 7施設
  - 1週間に1回 4施設
  - 年1、2回 3施設
  - 2ヶ月に1回 1施設
  - 3ヶ月に1回 1施設
- ・ 養護老人ホーム(1施設)
- ・ 軽費老人ホーム(1施設)
  - 1ヶ月に1回
- ・ 介護老人保健施設(13施設)
  - 1ヶ月に1回 9施設
  - 1週間に1回 1施設
  - 2週間に1回 1施設
  - 検討 2施設
- ・ 知的障害者援護施設(4施設)
  - 1ヶ月に1回 1施設
  - 1週間に1回 1施設
  - 検討 2施設



<アンケート>

(1) 施設名 ( )

(2) アンケート記入者のお名前と職種 ( )

(3) 貴施設では音楽療法を行っていますか。  
 ・はい ・いいえ

・「はい」と答えた方にお聞きます。

(4) どのような内容ですか。  
 [ ]

(5) 音楽療法を行っていて、何かお困りかお悩みなことがありましたらご記入ください。  
 [ ]

・当研究会会員が1グループ(2~4人程度)で各施設を訪問して入所者と一緒に音楽セッションを行いながら、各種研究を実施したいと思っておりますが、そのことについてお聞きます。

(6) 貴施設では当研究会員が訪問することについて、受入ができますか。  
 ・はい ・いいえ

・「はい」と答えた方にお尋ねします。

(7) 訪問時期はどのくらいがよいですか。  
 ・1ヶ月に1回 ・1週間に1回 ・その他 ( )

(8) 曜日についてはいつがよいですか。  
 ( 曜日 )

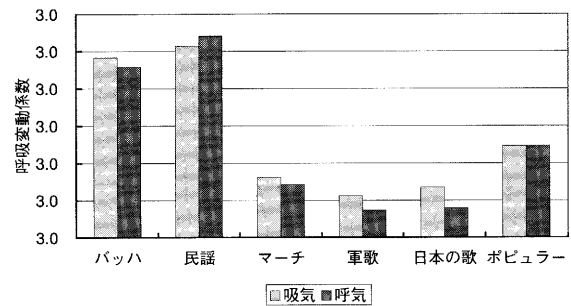
(10) 貴施設で当研究会に期待するものがありましたらご記入ください。  
 [ ]

(11) 貴施設を訪問する当研究会員に対して何かの経費負担(交通費や手当など)を考慮していただけますか、お尋ねします。  
 ・出せない ・考慮してもよい

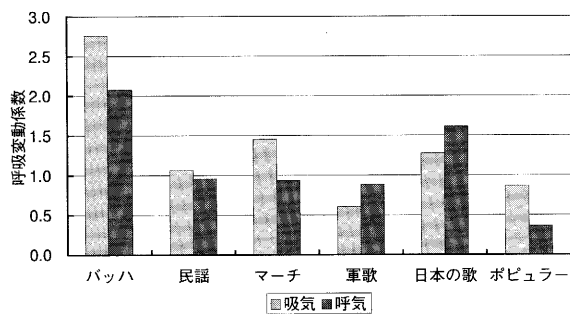
アンケートにご協力いただきましてありがとうございました。

資料4

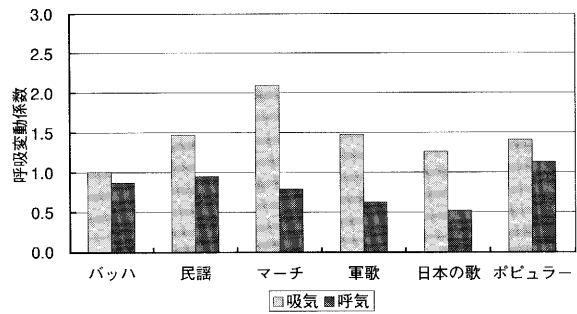
音楽鑑賞による呼吸変動 (E.Y)



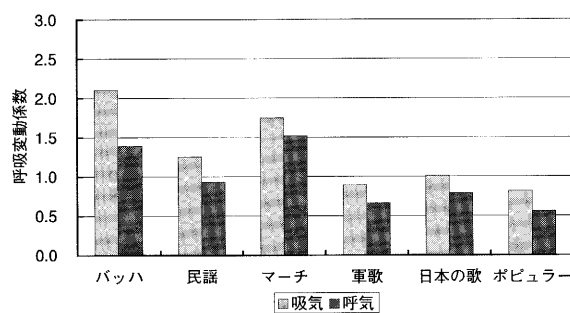
音楽鑑賞による呼吸変動 (A.M)



音楽鑑賞による呼吸変動 (N.K)



音楽鑑賞による呼吸変動 (K.S)



音楽鑑賞による呼吸変動 (R.S)

